

第2回花巻市行政評価委員会会議録

1 開催日時

平成23年10月4日（火）

- しごと部会、くらし部会 午前9時30分～午後12時
- 人づくり部会 午後1時30分～午後5時

2 開催場所

花巻市南万丁目970番地5

花巻保健センター 2階 集団指導室、会議室

3 出席者

(1) 委員 15名

■しごと部会

影山部会長、宮澤委員、伊藤（純）委員、長澤委員、高橋（セ）委員

■くらし部会

木村部会長、高橋（則）委員、伊藤（成）委員、永井委員

■人づくり部会

倉原部会長、瀬川委員、阿部委員、久保田委員、福盛田委員、菊池委員

(2) 事務局、施策及び事務事業担当課

4 議題及び報告事項

部会ごとに評価対象の施策及び事務事業の評価を行った。

■しごと部会

◆施策：2次・3次産業との融合による強い1次産業の育成

【主な意見】

- ・成果指標に集落営農に係る指標を加えるべきである。
- ・グリーンツーリズムに関する指標として、「実施学校・団体数」、「滞在日数」等を加えるべきである。
- ・成果指標「雑穀商品販売額」は、雑穀そのものの販売額と加工品の販売額を分類して明記した方がよい。
- ・成果指標「はなまきブランド品目数」については、品目として捉えるのか、商品として捉えるのかを整理すべきである。また、その品目（あるいは商品）名を明確にし、普及状況と実績による評価を行うべきである。
- ・数値は、取り組みの結果であることから、数値だけの評価ではなく、数値の中身について分析し、その状況、問題点、課題を整理する必要がある。

- ・グリーンツーリズムについては、花巻としての特色を出さなければ変わらないと思う。
- ・評価基準が大きすぎる。各指標については、大項目・中項目・小項目といった細かい数値を示す付属資料のようなものがあればよいのではないか。
- ・グリーンツーリズムの推進策として、観光資源と組み合わせた中高生・団体の呼び込みを考えてどうか。
- ・地場産品の普及拡大に向けて、学校給食への導入を進めてはどうか。
- ・高齢者が小規模でも特産品を生産し、日銭を稼げるような支援を行っていく必要があると思う。
- ・従来のグリーンツーリズムから、「食」「遊び」のツーリズムに転換するなど、旅行者の増に向けた新しい視点が必要であると思う。
- ・「はなまきブランド品」の開発には、行政、民間、消費者、生産者のつながりが大事である。
- ・目標達成に向けた計画の見直しが必要である。農業だけで食べていけるような施策が必要だが、実態は難しい。実態にあった計画の見直しをすべきである。
- ・農業の工業化など「夢のある農業」の創造に向け、時間をかけて施策の中身を見直す必要がある。

○事務事業：農業振興対策事業

【主な意見】

- ・成果指標「農畜産物販売高」は、農産物と畜産物に分けるなど、もう少し細かい指標に設定すべきである。
- ・農畜産物の各分野への事業投資の強弱が分かりにくい。
- ・目標数値の設定が妥当であるか否かの検討が必要ではないか。
- ・「他に手段がない」ではなく、「統廃合の必要はない」という表現の方がよいと思う。
- ・類似事業がないという点に疑問を感じる。
- ・他にどんな事業があるかわからないため評価が難しい。
- ・更に事業費を追加してもよいと思う。
- ・働いている人が創造力をもって連携を強化していくべきである。
- ・消費者についての受益機会は判断できない。
- ・ターゲットを首都圏以外にも広げるべきである。
- ・市内でも花巻産農畜産物の特徴を知らない人が多いと思う。食の知恵の普及を推進すべきである。
- ・地元が誇れるような新しい商品の開発をしていくべきである。
- ・各種協同組合同士の連携や県内加工メーカーとの連携などにより、消費拡大に一層努めるべきである。
- ・企業等への販促を行うなど、もっと果敢に挑戦していくべきではないか。

○事務事業：6次産業化推進事業

【主な意見】

- ・活動指標に料理教室の開催回数を加えた方がよい。
- ・料理教室については、一貫した施策をとって目標値を向上させる必要がある。
- ・目標未達成のまま終わるのではなく、他の手段を検討する必要がある。
- ・「はなまきブランド品」の市民への周知が必要であり、それが成果向上につながると思う。広報や各メディアを活用するなどPRの手法に工夫が必要である。
- ・他と統合することで効果を上げることができるのではないかと。
- ・まなび学園で実施している生涯学習講座との連携もできるのではないかと。
- ・お金をかけずに宣伝する方法を考えるなど、事業費の有効活用に努めていただきたい。
- ・花巻産農畜産物を活用した新商品を、農家レストランなど産直に隣接した店で提供して普及につなげていくべきであると思う。
- ・花巻産農畜産物の市民普及については、母ちゃんハウス「だあすこ」への一極集中ではなく、それに匹敵するものを増やしていくべきである。

■くらし部会

◆施策：良好な市街地の形成

【主な意見】

- ・「住民一人あたり公園面積」は、公園整備のほか、今後の人口減少によっても数値が変わってくる。どれくらいの面積を適切な数値とするか検討が必要ではないかと。
- ・人口減少や空洞化への対応が大きな課題（地域医療の確保、働く場の確保、安心して暮らせる市街地の整備など）
- ・良好な市街地を今後どのように整備していこうとしているのかがマネジメントシートではわかりにくい。
- ・平成24年度以降の目標値の定め方について検討が必要ではないかと。
- ・公共施設と公園に関連がある場所や、公園の名称の検討が必要である（例：花巻図書館が移設された場合のギンドロ公園のあり方や、中北万丁目公園の位置が中北万丁目ではないなど。）
- ・整備が花巻地域に集中しているような気がするので、交通量など客観的なデータにより必要性をしっかりと説明していくことや、市民の声を取り入れていくことが必要であると思う。

○事務事業：都市施設機能改善事業

【主な意見】

- ・駐車場利用の周知徹底により駐車場利用台数の増が期待できる。
- ・広報などでPRして市民に利用されるよう努めてほしい。

- ・花巻駅周辺の駐車場は整備されてきれいになった。低料金で使い安くなったことを広報などでPRして市民に利用されるよう努めてほしい。
- ・近隣商店街との連携も進めてほしい（例：買い物客への駐車料割引券の発行など）

○事務事業：景観づくり推進事業

【主な意見】

- ・景観計画策定の事業年度を前倒して進めてほしい。
- ・平成22年度は事業に着手したばかりということもあり、次年度以降の事業内容に期待したい。
- ・景観づくり推進事業としては類似事業はないかもしれないが、観光や文化財などの事業との連携が可能である。
- ・事業推進のうえで、観光や文化財などの事業との連携が可能である。
- ・観光や文化財などの事業と連携し、花巻の歴史、先人に配慮した計画づくりを進めてほしい。
- ・市民の意見も取り入れながら、花巻の歴史、先人に配慮した景観計画としてほしい。
- ・計画策定までの期間が長いと職員の異動により事務が停滞することも懸念される。

■人づくり部会

◆施策：安心して育てることができる子育て支援の充実

【主な意見】

- ・目標値の設定が、努力目標であったり、理想値となっている。
- ・指標「子育てしやすいまちだと感じる市民の割合」について、市民アンケートではなく子育て世代を対象としたアンケートにすべきではないか。
- ・目標値の設定根拠が極めて曖昧である。指標設定の決定プロセスが見えてこない。
- ・目標達成可能とあるが、根拠、判断理由に「見直し検討を行う。」とあり矛盾しているのでは。表現方法を検討のこと。
- ・全般的に評価材料が不足しており判断ができない。分かりやすい根拠を示すことが必要である。
- ・指標の設定方法、根拠の妥当性を明確にするべき（他市との比較等）。総合計画策定の根本を揺がしかねない。

○事務事業：児童育成支援事業

【主な意見】

- ・施策の目標値と一致していないが、現実的な努力目標値として設定されている。
- ・中間評価欄が未記入である。
- ・目標未達成にもかかわらず、見直し余地がないというのは矛盾しているのではないか。

- ・評価結果がすべて適切となっているにもかかわらず、「事業の改善について具体的にどのような取り組みをするのか」の欄が記載されているのは疑問である。

◆施策：活力と特色ある学校教育の推進

【主な意見】

- ・施策名にある「活力」と「特色」の達成状況が明確になる指標を設定すべきではないか。
- ・意図を「生きる力が育まれる」とするのであれば、知、徳、体の3本柱を指標にすべきではないか。
- ・学習定着度の達成は難しいと判断した。

○事務事業：学力向上推進事業

【主な意見】

- ・事務事業シートでは未達成とあるが、施策シートの貢献度評価結果では目標どおりとある。シートが不完全ではないか。評価すべき判断材料が揃っていない。
- ・他に手段があると評価しているのに、理由には「類似している事業はない」と矛盾している。
- ・シートが不完全あり、内容の濃い議論ができなかった。
- ・部会評価は判断材料が少ない状態で行ったものであり、強い自信を持った評価ではない。部会での議論を参考にするのは良いが、評価システム自体を検討すべきではないか。

6 傍聴人数

0人

7 問い合わせ先

花巻市政策推進部企画調整課

電話番号：0198-24-2111（内線212）